

報 告

第 19 回 日本義肢装具士協会 学術大会

有限会社砂田義肢製作所 江藤 真一

1. はじめに

さる平成 24 年 7 月 7 日(土)、7 月 8 日(日)、の 2 日間、第 19 回日本義肢装具士協会 学術大会が開催された。義肢装具士の有資格者が組織する日本義肢装具士協会は正会員 2 千名弱の集まりではあるが、毎年各支部持ち回りで学術大会を開催しており、今年は北の大地、北海道の札幌コンベンションセンターにおいて開催された。今学会は「地域に密着した福祉とは？」をテーマに、義肢装具士はもちろんのこと、それ以外の各分野でご活躍されている研究者や臨床家の先生方からの特別講演、演題発表や関連メーカーによる商業展示などのプログラムで開催された。



図 1 札幌コンベンションセンター

2. 学術大会の内容

7 日は特別企画「震災における義肢装具士の役割」ほか、特別講演 3 題、一般演題 30 題、ランチョンセミナー 1 題、マニファクチャラーズワークショップ

プ 1 題の計 36 題。

8 日は生涯学習セミナー 1 題、特別講演 1 題、一般演題 30 題の計 32 題の講演・発表が行われた。

3. 学会内容

特別講演では、昨年発生した東日本大震災において実際に現地でおこなわれた活動、災害時の対応や役割。また海外で現地の方と取り組んだ活動など、義肢装具士が「地域」とどのように向き合っていくべきかを焦点とした講演、国際義肢装具協会会長の Dr. Jan Geertzen 氏を招いての義肢装具における皮膚トラブルについての招待講演、装具・ボツリヌス併用療法についてのシンポジウム、義肢装具の種類によりグループ別に分けた症例・研究報告の一般演題などのさまざまな講演あり、大変内容の濃い学術大会であった。この中で特に印象に残ったのがシンポジウムの装具・ボツリヌス療法である。

私自身も脳卒中片麻痺患者の痙縮には頭を悩ませていたところで、装具・ボツリヌス療法については今大会プログラムをいただいた当初から気になっていた。実際、講演を聞いて、ボツリヌス療法の痙縮の軽減への効果を知ると共に、維持時期リハビリテーションを大幅改善できる手段としての可能性を垣間見ることができた。

4. 商業展示

商業展示では日頃お世話になっているメーカーや義肢装具関連企業、また養成校や他学会の広報などの展示があり、大変見応えのあるものであった。会場内にフリードリンクコーナーも設置しており、リラックスをして展示品を見て回ることができた。特に目を引いたのはパシフィックサプライ(株)によるモジュラーソケットを使用した下腿義足のデモンストレーションで、その場で義足を製作し、短時間で歩行

有限会社砂田義肢製作所

〒 901-2101 沖縄県浦添市字西原 738-11

練習を行う点に驚いた。また、合わせて、義足の連結部に組み込む簡易的な床反力計のようなもの（メーカーさんの表現ではソケット内反力計）も見ることができた。通常、現場でのアライメント調整は、義肢装具士の経験と、患者さんの主観において評価を行う。しかし、主観と客観がずれることがあり、説明に困るケースも経験してきた。現場で数値化され、グラフをお互いに見ながら調整できれば、調整の良否をユーザーさんへの説明も、より具体的に行えると期待できる。

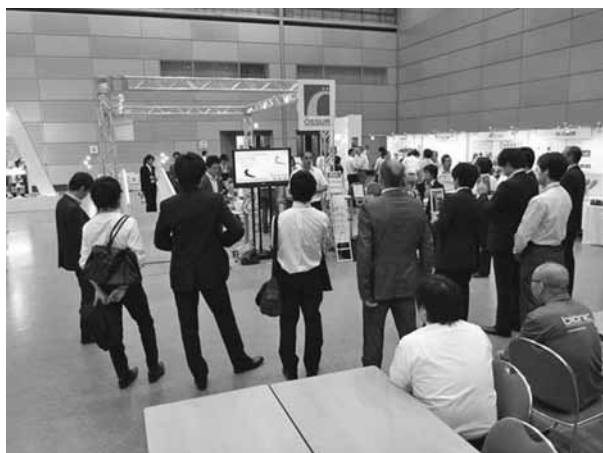


図2 商用展示

他にも、近年関わる機会が多くなっている糖尿病患者の褥創に有効な短下肢装具やモジュラー式のシーティングシステムなど、初めて目にするものも多数あり、現場での選択肢を増やす良い情報収集の機会となった。

5. 懇親会

7日夜にはビヤホールでの懇親会が、盛大に行われた。北海道のビールとジンギスカンを楽しみ、地元大学生によるソーラン節では、参加者が一緒に舞台上で踊り、大変な盛り上がりようであった。



図3 懇親会

6. おわりに

見聞を広めることの重要性は常々感じていたことではあったが、それを痛感した2日間であった。普段接する機会の少ない著明な先生方の講演を聞いたことは、義肢装具士の臨床の経験が浅い私にとって教科書上では決して得られない内容の濃いものであった。今後は今学会で吸収した知識を臨床の現場で役立て、ユーザーのみなさまに喜んでいただけるような製品を提供していきたい。

日本義肢装具士協会学術大会は、来年第20回大会の節目を迎え、記念大会として沖縄で開催される。夏の過ごしやすい北海道から一転、真夏の沖縄へと気候はガラリと変化するが、来年、多数の皆さまが沖縄へお越しいただけることを願っている。

メンソーレ!!



図4 沖縄大会ブースにて